

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 平成24年11月9日

【四半期会計期間】 第60期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

【会社名】 株式会社 T T K

【英訳名】 TTK Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 土肥 幹夫

【本店の所在の場所】 仙台市若林区新寺一丁目2番23号

【電話番号】 022(297)5111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 柳 沢 忠 夫

【最寄りの連絡場所】 仙台市若林区新寺一丁目2番23号

【電話番号】 022(297)5111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 柳 沢 忠 夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回 次	第59期 第 2 四半期 連結累計期間	第60期 第 2 四半期 連結累計期間	第59期
会計期間	自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日	自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日	自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日
売上高 (百万円)	18,369	18,013	39,830
経常利益 (百万円)	486	344	1,226
四半期(当期)純利益 (百万円)	338	94	513
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	288	149	528
純資産額 (百万円)	16,114	16,136	16,192
総資産額 (百万円)	25,027	24,269	25,893
1 株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	16.93	4.75	25.71
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	62.2	64.1	60.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,339	782	3,129
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	218	262	155
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,684	289	1,928
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	5,968	4,373	4,142

回 次	第59期 第 2 四半期 連結会計期間	第60期 第 2 四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年 7 月 1 日 至 平成23年 9 月30日	自 平成24年 7 月 1 日 至 平成24年 9 月30日
1 株当たり四半期純利益金額 (円)	4.44	3.21

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 売上高には、消費税等は含まれていない。
- 3 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益金額については潜在株式が存在しないため、記載していない。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。

また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

なお、重要事象等は存在していない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものである。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、復興需要等により回復の兆しが見られるものの、欧州政府債務危機を背景とした世界景気の下振れや金融資本市場の変動により、我が国の景気が下押しされるリスクが存在している。

情報通信市場においては、ブロードバンド化・ユビキタス化の急速な進展に伴い、固定通信分野では光ブロードサービスの拡大による固定電話のIP電話移行が進んでおり、移動通信分野ではコンテンツサービスの広がりによるスマートフォンやタブレット端末等の競争が激化している。また、ICT(情報通信技術)の利活用が様々な分野において展開されるなど取り巻く環境も大きく変わろうとしている。

このような経営環境の中、当社グループでは「第3次中期経営計画」(平成23年度～平成25年度)に基づき、従来からの各種エンジニアリング事業に加え、東北全域に整備されたブロードバンド情報通信基盤を活用したIP・ソリューション事業の強化やNCC系モバイル及び環境ビジネス分野への事業体制を強化し、東北全域での事業展開に取り組んでいる。

その結果、売上高は18,013百万円(前年同四半期連結累計期間比355百万円減少)、営業利益は302百万円(前年同四半期連結累計期間比142百万円減少)、経常利益は344百万円(前年同四半期連結累計期間比141百万円減少)、四半期純利益は94百万円(前年同四半期連結累計期間比243百万円減少)となった。

セグメントの業績を示すと、次のとおりである。

(電気通信工事業)

当第2四半期連結累計期間における売上高については、光サービスエリアの拡大及び、東日本大震災により被災した通信設備の復興工事による受注が伸びたこと等により、受注高は19,753百万円(前年同四半期連結累計期間比1,945百万円増加)、完成工事高は16,055百万円(前年同四半期連結累計期間比151百万円増加)、セグメント利益は278百万円(前年同四半期連結累計期間比111百万円減少)となった。

(工事材料等販売事業)

工事材料等販売事業は、通信工事材料等の販売を行っている。当第2四半期連結累計期間における受注高は1,958百万円(前年同四半期連結累計期間比506百万円減少)、売上高は1,958百万円(前年同四半期連結累計期間比506百万円減少)、セグメント利益は36百万円(前年同四半期連結累計期間比17百万円減少)となった。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は24,269百万円であり、前連結会計年度末比1,624百万円減少した。流動資産は15,851百万円で前連結会計年度末比1,304百万円減少した。これは主に、完成工事未収入金が2,412百万円減少したことによるものである。固定資産は8,417百万円で前連結会計年度末比320百万円減少した。これは主に有形固定資産が前連結会計年度末比113百万円減少し、投資その他の資産が前連結会計年度末比222百万円減少したことによるものである。

負債については8,133百万円と前連結会計年度末比1,568百万円減少した。流動負債は4,613百万円で、前連結会計年度末比1,446百万円減少した。これは主に工事未払金646百万円の減少及び未払金314百万円の減少によるものである。固定負債は3,519百万円で前連結会計年度末比121百万円減少した。

純資産は16,136百万円と前連結会計年度末比56百万円減少した。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ230百万円増加の4,373百万円となった。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は782百万円(前第2四半期連結累計期間は4,339百万円の増加)となった。これは、売上債権の減少2,607百万円、仕入債務の減少912百万円、未成工事支出金の増加908百万円等によるものである。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は262百万円(前第2四半期連結累計期間は218百万円の増加)となった。これは、有形及び無形固定資産の取得による支出284百万円等によるものである。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は289百万円(前第2四半期連結累計期間は1,684百万円の減少)となった。これは、配当金の支払額199百万円等によるものである。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1百万円である。

第 3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普 通 株 式	66,428,000
計	66,428,000

【発行済株式】

種 類	第 2 四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年 9 月30日)	提 出 日 現 在 発 行 数 (株) (平成24年11月 9 日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内 容
普 通 株 式	21,226,071	21,226,071	東京証券取引所 (市 場第二部)	単元株式数は 1,000株である。
計	21,226,071	21,226,071		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はない。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年 月 日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年 9 月30日		21,226,071		2,847		2,641

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	1,042	4.90
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	1,019	4.80
株式会社七十七銀行	宮城県仙台市青葉区中央3-3-20	989	4.65
T T K従業員持株会	宮城県仙台市若林区新寺1-2-23	832	3.92
日本興亜損害保険株式会社	東京都千代田区霞が関3-7-3	525	2.47
株式会社アイチコーポレーション	埼玉県上尾市領家字山下1152-10	514	2.42
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1-1-5	477	2.24
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ノーザン トラスト ガンジー ノン トリーディング クライアント(常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WH ARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3-11-1)	475	2.23
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1-2-1	323	1.52
株式会社みちのく銀行	青森県青森市勝田1-3-1	287	1.35
計		6,483	30.54

(注) 上記のほか当社所有の自己株式1,243千株(5.85%)がある。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,243,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,804,000	19,804	
単元未満株式	普通株式 179,071		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,226,071		
総株主の議決権		19,804	

(注) 1 「完全議決権株式数(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が8,000株(議決権8個)含まれている。

2 「単元未満株式数」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が146株含まれている。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株 株式会社 T T K	仙台市若林区新寺1-2-23	1,243,000		1,243,000	5.85
計		1,243,000		1,243,000	5.85

2 【役員の状況】

該当事項はない。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	4,565	4,808
受取手形及び売掛金	1 839	1 644
完成工事未収入金	9,157	6,744
有価証券	-	100
未成工事支出金	1,610	2,519
材料貯蔵品	297	303
商品	237	275
繰延税金資産	345	349
その他	114	118
貸倒引当金	12	12
流動資産合計	17,155	15,851
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	5,373	5,378
機械・運搬具	188	192
土地	2,580	2,580
リース資産	825	874
建設仮勘定	3	1
その他	975	992
減価償却累計額	4,409	4,595
有形固定資産合計	5,538	5,424
無形固定資産	401	416
投資その他の資産		
投資有価証券	1,532	1,376
繰延税金資産	1,118	1,059
その他	310	302
貸倒引当金	162	162
投資その他の資産合計	2,798	2,576
固定資産合計	8,737	8,417
資産合計	25,893	24,269

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
工事未払金	3,168	2,521
買掛金	1,343	1,078
リース債務	161	171
未払金	776	461
未払法人税等	301	113
未成工事受入金	20	112
完成工事補償引当金	2	2
工事損失引当金	-	23
災害損失引当金	80	-
その他	204	129
流動負債合計	6,059	4,613
固定負債		
リース債務	381	352
退職給付引当金	3,053	2,997
役員退職慰労引当金	207	170
固定負債合計	3,641	3,519
負債合計	9,701	8,133
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,847	2,847
資本剰余金	2,641	2,641
利益剰余金	10,363	10,258
自己株式	380	382
株主資本合計	15,471	15,364
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	158	198
その他の包括利益累計額合計	158	198
少数株主持分	562	572
純資産合計	16,192	16,136
負債純資産合計	25,893	24,269

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高		
完成工事高	15,863	15,945
兼業事業売上高	2,505	2,068
売上高合計	18,369	18,013
売上原価		
完成工事原価	14,082	14,297
兼業事業売上原価	2,377	1,945
売上原価合計	16,459	16,242
売上総利益		
完成工事総利益	1,781	1,647
兼業事業総利益	128	123
売上総利益合計	1,909	1,771
販売費及び一般管理費	1,464	1,468
営業利益	445	302
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	23	23
受取賃貸料	9	12
雑収入	20	13
営業外収益合計	54	50
営業外費用		
支払利息	6	2
雑支出	6	5
営業外費用合計	13	8
経常利益	486	344
特別利益		
負ののれん発生益	-	0
受取保険金	34	-
その他	0	-
特別利益合計	35	0
特別損失		
固定資産除却損	2	-
投資有価証券評価損	2	108
災害損失	23	-
特別損失合計	28	108
税金等調整前四半期純利益	493	237
法人税、住民税及び事業税	70	86
法人税等調整額	56	41
法人税等合計	127	128
少数株主損益調整前四半期純利益	365	108
少数株主利益	27	13
四半期純利益	338	94

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	365	108
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	76	40
その他の包括利益合計	76	40
四半期包括利益	288	149
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	262	135
少数株主に係る四半期包括利益	26	13

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	493	237
減価償却費	233	254
災害損失	23	-
負ののれん発生益	-	0
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	16	37
退職給付引当金の増減額(は減少)	16	55
工事損失引当金の増減額(は減少)	-	23
受取利息及び受取配当金	25	24
支払利息	6	2
有形固定資産除売却損益(は益)	2	-
投資有価証券評価損益(は益)	2	108
売上債権の増減額(は増加)	3,206	2,607
未成工事支出金の増減額(は増加)	178	908
その他のたな卸資産の増減額(は増加)	37	43
仕入債務の増減額(は減少)	235	912
未成工事受入金の増減額(は減少)	553	91
未払金の増減額(は減少)	129	212
その他	93	96
小計	4,511	1,034
利息及び配当金の受取額	25	24
利息の支払額	6	2
法人税等の還付額	27	3
法人税等の支払額	218	276
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,339	782
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	497	13
有形固定資産の取得による支出	178	98
無形固定資産の取得による支出	122	185
投資有価証券の売却による収入	0	-
子会社株式の取得による支出	-	0
貸付けによる支出	16	0
貸付金の回収による収入	7	7
その他	30	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	218	262
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,400	-
リース債務の返済による支出	79	83
配当金の支払額	199	199
少数株主への配当金の支払額	3	3
自己株式の取得による支出	1	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,684	289
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,872	230
現金及び現金同等物の期首残高	3,096	4,142
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,968	4,373

【会計方針の変更等】

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第 1 四半期連結会計期間より、平成24年 4 月 1 日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更している。 これにより、当第 2 四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微である。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理している。
なお、当第 2 四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれている。

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成24年 9 月30日)
受取手形	1 百万円	0 百万円

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
従業員給与手当	580 百万円	567 百万円
退職給付費用	54 "	55 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりである。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
現金預金	6,374 百万円	4,808 百万円
預入期間が 3 か月を超える 定期預金	405 "	435 "
現金及び現金同等物	5,968 百万円	4,373 百万円

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年 6 月28日 定時株主総会	普通株式	199	10	平成23年 3 月31日	平成23年 6 月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月 8 日 取締役会	普通株式	159	8	平成23年 9 月30日	平成23年11月29日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はない。

当第 2 四半期連結累計期間(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年 6 月28日 定時株主総会	普通株式	199	10	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月 7 日 取締役会	普通株式	159	8	平成24年 9 月30日	平成24年11月29日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はない。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成 23年 4月 1日 至 平成 23年 9月 30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報 告 セ グ メ ン ト		合 計
	電気通信工事業	工事材料等販売事業	
売上高			
外部顧客への売上高	15,904	2,464	18,369
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	2,013	2,014
計	15,905	4,477	20,383
セグメント利益	390	54	444

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	444
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の営業利益	445

当第 2 四半期連結累計期間(自 平成 24年 4月 1日 至 平成 24年 9月 30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	電気通信工事業	工事材料等販売事業	
売上高			
外部顧客への売上高	16,055	1,958	18,013
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	1,737	1,739
計	16,057	3,695	19,753
セグメント利益	278	36	315

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	315
セグメント間取引消去	13
四半期連結損益計算書の営業利益	302

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第 1 四半期連結会計期間より、平成24年 4月 1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更している。

当該変更により、当第 2 四半期連結累計期間の「電気通信工事業」のセグメント利益及び「工事材料等販売事業」のセグメント利益に与える影響は軽微である。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項 目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	16円93銭	4円75銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	338	94
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	338	94
普通株式の期中平均株式数(株)	19,991,325	19,985,129

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項はない。

2 【その他】

第60期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)中間配当については、平成24年11月7日開催の取締役会において、平成24年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議した。

配当の総額 159百万円
 1株当たりの金額 8円
 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成24年11月29日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月5日

株式会社 T T K
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅 博雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 木村大輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社 T T K の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 T T K 及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。